

2025年は敗戦から80年。忘れてはならない思いがあります。

太平洋戦争末期、
特攻隊員が墜落し
流れ着く島があった

黒島を 忘れな

著者 小林広司
構成 東良美季
小林ちえみ



昭和20年4月ごろから、日本兵の遺体が流れ着くようになった。特攻隊員が出撃するルート上に島があったため、ろくに訓練も受けていない学徒兵や少年兵が操縦する整備不良の飛行機が途中の海に墜落するのである。

戦争末期で自分たちの食べるものもないのに島の人たちは、自分たちが木の根っこや雑草を食べてでも、生きて流れ着いた若者たちを救おうとした。

今蘇る、鹿児島沖に浮かぶ「黒島」の人たちと、思い半ばで不時着した若き軍神たちとの、戦争と愛情の記録。

1月25日深夜 KKB鹿児島放送にて

トークセッション『語り継ぐ戦争と平和 特攻出撃から80年』～若者が考える戦争と平和～が放送されます。

鹿児島県立伊集院高校演劇部が『黒島を忘れな』を元に演劇を作り上演しています。この演劇を見ながら、特攻を考える番組です。

本書の紹介も、入っていますので、ぜひ店頭にお揃えください。

ファックスでのご注文は

西日本出版受注センター

FAX: 06-6310-7057

〒564-0044 大阪府吹田市南金田1-11-11-202

発売 西日本出版社

TEL: 06-6338-3078

キリトリ線

黒島を忘れな

■ 著者…小林広司 ■ 構成…東良美季 小林ちえみ

■ 本体価格…1,400円

■ 判型…四六判並製 256P

ISBN978-4-908443-00-8

冊

注文数(注文品)

書店名(番線)